

事務事業名		少人数指導事業		☐ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業																															
政策体系	政策名	06: 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間 ☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 18 年度 ~) ☐ 期間限定複数年度 (計画期間) 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入																															
	施策名	27: 義務教育の充実																																	
	基本事業名	04: 心豊かでたくましく生きる人間の育成																																	
根拠法令				予算科目 会計 01 款 10 項 02 目 02 事業 09																															
所属	部課名	教育委員会 学校教育課																																	
	係名	指導係	電話 0192-27-3111 内線 263																																
	係名																																		
事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 本事業は、30人以上の学級を有する学校に非常勤講師を配置し、児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を施すことにより、基礎学力の定着を図るものである。 主な業務は、非常勤講師の委嘱、非常勤講師と学校との連携、教員と非常勤講師による指導、非常勤講師の研修会開催、非常勤講師への報償費支払い、多人数学級での少人数指導 (TT指導) を行う。 少人数指導・・・1学級を2つのグループに分けて、それぞれのグループを教師・非常勤講師が教える。 TT指導・・・1学級の児童に2人 (教師・非常勤講師) が教える。																																			
全体計画 (期間限定複数年度のみ) <table border="1"> <tr> <td rowspan="5">総投入量 (千円)</td> <td rowspan="5">事業費内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>事業費計 (A)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人件費</td> <td></td> <td>正規職員従事人数</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>延べ業務時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>人件費計 (B)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>トータルコスト(A) + (B)</td> <td>0</td> </tr> </table>						総投入量 (千円)	事業費内訳	国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源				事業費計 (A)	0	人件費		正規職員従事人数			延べ業務時間			人件費計 (B)	0			トータルコスト(A) + (B)	0
総投入量 (千円)	事業費内訳	国庫支出金																																	
		都道府県支出金																																	
		地方債																																	
		その他																																	
		一般財源																																	
		事業費計 (A)	0																																
人件費		正規職員従事人数																																	
		延べ業務時間																																	
		人件費計 (B)	0																																
		トータルコスト(A) + (B)	0																																

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標									
手段 (主な活動) 前年度実績 (前年度に行った主な活動) 市内7小学校に8名の非常勤講師を配置し、多人数学級での少人数指導 (TTを含む) を実施した。 今年度計画 (今年度に計画している主な活動) 市内7小学校に8名の非常勤講師を配置し、多人数学級での少人数指導 (TTを含む) を実施する。	活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>ア 非常勤講師の配置人数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	ア 非常勤講師の配置人数	人	イ		ウ	
名称	単位								
ア 非常勤講師の配置人数	人								
イ									
ウ									
対象 (誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 30人以上の学級に在籍している児童	対象指標 (対象の大きさを表す指標) <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>カ 30人以上の学級に在籍している児童数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>キ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ク</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	カ 30人以上の学級に在籍している児童数	人	キ		ク	
名称	単位								
カ 30人以上の学級に在籍している児童数	人								
キ									
ク									
意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか) 生徒の学習の程度や興味・関心に応じたきめ細やかな少人数指導を受けることができる。	成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標) <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>サ 少人数指導時間数 (延べ)</td> <td>時間</td> </tr> <tr> <td>シ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ス</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	サ 少人数指導時間数 (延べ)	時間	シ		ス	
名称	単位								
サ 少人数指導時間数 (延べ)	時間								
シ									
ス									
結果 (基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか) 健康でたくましく成長できる。									

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)
投入量	事業内訳	単位						
		千円						
投入量	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円		12,000	16,000	15,225		
	一般財源	千円		412	2,967	1,723	16,904	17,139
	事業費計 (A)	千円	0	12,412	18,967	16,948	16,904	17,139
	正規職員従事人数	人		1	1	1	1	1
	延べ業務時間	時間		100	100	100	100	100
	人件費計 (B)	千円	0	400	400	400	400	400
	トータルコスト(A) + (B)	千円	0	12,812	19,367	17,348	17,304	17,539
活動指標	ア	人		6	9	8	8	8
	イ							
	ウ							
対象指標	カ	人		1,027	1,010	739	739	739
	キ							
	ク							
成果指標	サ	時間		6,300	9,450	8,400	8,400	8,400
	シ							
	ス							

事務事業ID	1222	事務事業名	少人数指導事業
--------	------	-------	---------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

多人数学級での児童生徒の一斉指導が年々難しくなっており、基礎学力の定着を図るため、児童生徒の学習の程度や興味・関心に応じたきめ細やかな指導の必要性が高まった。

事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

少人数指導や少人数学級による指導が各県や政令指定都市で導入されてきた。

この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

学校関係者から、「きめ細やかな指導により、生徒の学習態度に落ち着きが見られる。」という感想が寄せられている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] 少人数指導により、児童は落ち着いて授業を受けるようになり、同時に学習意欲も高まる。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 学習意欲が高まることで、学力が向上し、心豊かでたくましい児童生徒の育成が図られる。
	対象・意図の妥当性	☒ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 適切である [理由] 対象に生徒(中学生)を追加するためには、非常勤講師の人数を増やす必要がある。非常勤講師の人数を増やすことができれば、対象に生徒を追加する必要がある。少人数指導により、学習の程度や興味・関心に応じたきめ細やかな指導が行える環境がとくられているので、意図の限定・拡充は必要ない。
有効性 評価	成果の向上余地	☒ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない [理由] 多人数学級における少人数指導は、主体的な学習態度の育成に非常に効果的であり、今後さらに充実を図ることが望ましい。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 非常勤講師の配置がなければ、少人数指導は困難である。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] 県で配置する少人数指導や児童支援の非常勤講師のみでは不十分である。 ☒ 他に手段がない [理由]
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 非常勤講師の配置がなければ、少人数指導の実施は不可能である。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 各配置校において、非常勤講師の勤務時間を最大限有効に活用した少人数指導が実施されている。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] この事業の受益者は特定できないし、行政のコストとして負担するのが妥当である。

事務事業ID	1222	事務事業名	少人数指導事業
--------	------	-------	---------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 多人数学級における少人数指導は、主体的な学習態度の育成に非常に効果的である。大規模校への1人配置は不十分であるため、今後さらに充実を図ることが望ましい。																						
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>有効性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり												
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																						
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容)		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		●	×																				
	低下		×	×																				
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし。																								

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	学校教育課長
-------	--------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(2) 2次評価者としての評価結果		(3) 評価結果の根拠と理由 21年度は小学校7校に8名の非常勤講師を配置し、大規模校には2名配置した。その結果、県の学習定着度状況調査において学力の向上がみられた。さらに、中学校への配置についても、検討していく必要がある。																						
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>有効性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> </table>	目的妥当性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり														
目的妥当性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																								
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																								
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																								
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																								
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☒ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 30人以上の学級がある小学校への配置はもとより、中学校における少人数指導講師の配置についても検討する必要がある。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上			●	維持			×	低下		×	×
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上			●																						
	維持			×																						
	低下		×	×																						

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
